

四角い穴事件

先日、浜辺で「バイトマーク」を見つけました。

石狩浜には、貝殻や流木からごみまで、いろいろなものが海流によつて運ばれてきます。そんな漂着物の中のプラスチック容器やビニールのチューブなどをよく見ると、1〜2cmほどの大きさの四角い、ひし形の穴が開いていることがあります。中には1個の容器に5つも6つも穴が開いていることも。幾何学的な穴の形と鋭い切り口から、明らかに何者かが刃物物を使って開けたに違いありません。犯人はいつた誰？ 何のために？

容疑者の筆頭は、実はウミガメ。バイトマーク(bite mark)とは生物のかみ跡のことで、特にこれら漂着物に見られるひし形の穴は、「タートルバイト」(turtle bite、カメのかみ跡)とも呼ばれ、穴の形や大きさからウミガメのくちばし(ウミガメには歯がありません)がかみ切ったものと考えられています。海面をゆらゆら漂うプラスチックなどを餌の

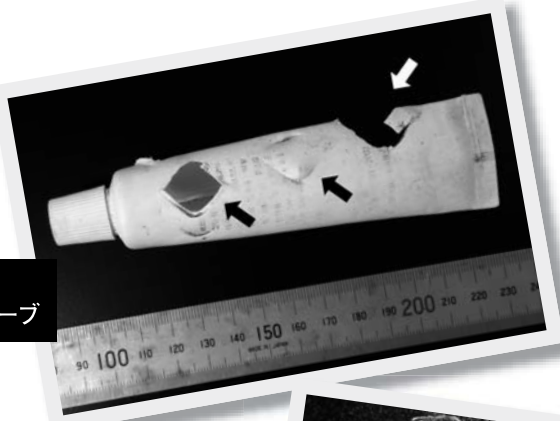
クラゲと誤ってかみつくのだろう、と言われていました。

ところがこの説、冤罪^{えんざい}かもしれません。最近、漂着物学会の会員たちの間から疑惑の声が聞こえるようになってきたのです。ウミガメのくちばしは固いプラスチックに穴を開けるほどには鋭くない、とか、水族館のウミガメで実験してみたところかみ切れたのはせいぜいキヤベツくらいだった、とか。さらには、幅が10cmもあるバイトマークを発見した、という情報も。これはウミガメがかんだ跡にしては大きすぎます。議論はまだ決着がついていませんが、ウミガメのほかに、サメ、マンボウやフグの仲間、大きなイカなどが重要参考人として挙げられています。

この四角いバイトマークのついた漂着物、西日本の日本海側ではたくさん見られるのに対して、北海道ではめったに見つかりません。また、穴の開いたプラスチック製品は韓国製が多いことから、暖流に乗って流されてきたことが推測できま

す。四角い穴の真犯人が誰かはまだ分かりませんが、どうやら事件は北海道から遠く離れた南の海で起きているようです。

(志賀 健司)



被害者A:
韓国製ラミネートチューブ



容疑者A:
アカウミガメ



被害者B:
日本製プラスチック容器

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館
☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp